

80周年特別企画

『天高水泳部が目指すべき方向』

高20期 村瀬 潤 記

座談会出席者：

福田 隆 先生（1967年～1980年）

中尾俊治先生（1984年～1997年）

大澤延行先生（1997年～）

村瀬 潤（高20期）

金 東 澄（高26期）

2002年12月1日（日）16:00～17:00

場所：阿倍野筋『大松寿司』

村瀬：本日は師走のお忙しい時期に時間を取っていただいて、大変ありがとうございます。

<先生方の近況>

福田先生：大阪体育協会をH14年の3月に退職後、4月から武庫川女子大学の非常勤講師で水泳指導をしています。

中尾先生：天王寺高校から大阪府教育委員会事務局に異動し、現在に至ります。主任指導主事。

大澤先生：赴任して6年。現在は、担任クラス無しの保健主事。部員数は、3学年合わせて51名。やっと部活動の指導が分ったかなと、思うこの頃です。

<担当当時の思い出>

福田先生：S42年2月からS55年3月まで13年間担当。8コース有った3代目のプールのオープンと同時期に赴任。部員数が少ない時期でした。中尾先生の時代になると部員も増えましたね。私学も台頭した時期でした。東京オリンピックの時に中野悟君も居て、桜宮高校に屋内温水プールを作り強化していた時代です。都島工業高校も頑張っていたが、私学が台頭して来て公立では苦しかった

時代だった。

<泳ぎを楽しむ>

中尾先生：S59年4月からH9年の4月まで13年間。H7-8年度は教育センター（指導主事）と兼務。3代目のプールは、H2年まで使用。H4年から4代目を使用。H3年は、1年間の間借り生活でした。37期から51期まで、延べ約240名の部員を指導。部員も増えて多い時は3学年合せると80名程度居て、8コース有っても溢れていた。5秒間隔では間に合わないの、2.5秒間隔でスタートしていく練習もしていた。学級数が12クラスの最後の頃です。

<天高水泳部は強かった>

日本選手権や国体またインターハイにも行かせて戴きましたが、初めて行ったのは2年目の時です。3年生の伊泉秀悦君が100m自由形で全国標準記録を突破し、また1年生の迫川 緑さんもイトマンを辞めて水泳をやらないつもりだったが、もう一度水泳をやらないかと勧誘した結果、天王寺高校の水泳部活動としてやってくれて、この年インターハイへ初めて行った。その後、島根、北海道、高知、宮城、静岡、鳥取、山梨まで8回、延べでは30数名が全国大会へ行きました。迫川さんは、イトマン・スイミングから天王寺高校の水泳部に替わり、環境も変わったけれど大変頑張った。1年生のときから大阪では優勝。インターハイでも1年生で100m平泳ぎ4位、200m3位でした。

リレー種目では素人集団だったが、大阪の新人戦で決勝に残れたので全国大会に向けて頑張ってみようと言っていたら、翌年男女のリレーで全国インターハイに出場できた。迫川さんと共に男女のリレーが揃ってインターハイに行けたことが初期の頃のうれしい思い出です。

<以下省略 全文は会員のページをご覧ください>